KAWASAKI STEEL GIHO Vol.8 (1976) No.2

Spiraling Conditions of Steel Wires to Get Steady Width

(Kazuo Arai)[·] (Bonpei Shinohara)

Synopsis:

:

For the purpose of producing the steel cords of stable quality, the factors influencing spiraling of steel wires were investigated. From the experiments of pin-type spiraling, it has been made clear that properties of cords are determined by the spiral width of wires and that the spiral width is dependent on tension, a bending angle of wire and a diameter of working pin. The spiral width was found to become constant at a certain specific bending angle, independent of wire tension which was difficult to be held constant during production of cords. A theoretical consideration is also performed on the constancy of spiral width. On the basis of these findings, the steel tire cords of high quality have been produced at Kawatetsu Wire Products Co., Ltd.

(c)JFE Steel Corporation, 2003

鋼線のらせん加工時のらせん幅安定条件

Spiraling Conditions of Steel Wires to Get Steady Width

新井和 夫* Kazuo Arai

平** 原 篠 凡 Bonpei Shinohara

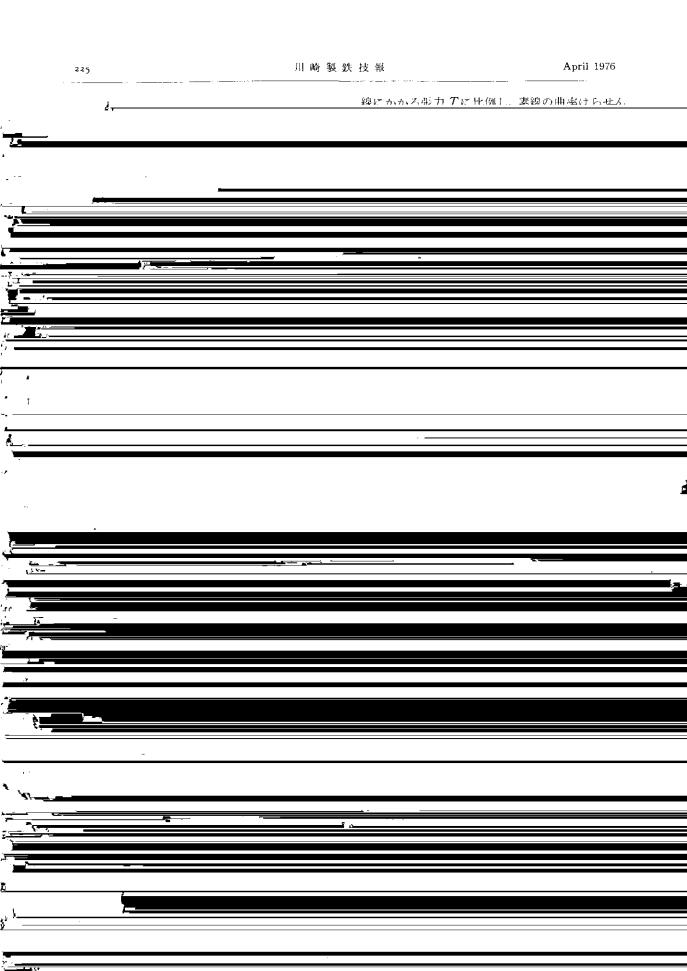
	Synopsis :			
	E. Durante		· L _ L	
<u>ب</u>				
J				
- ł				
9				
1மூட				
ነ ት ነ።				
-				
:				
	-			
	steel wires were i			
t	from the erre	mments of <u>nin-tune e</u> ntraling it has been	on made clear that properties	of cords are
	L .			
د *۲				
•				

٢ n

		= · ·	Pも一定となる、したがって、ve, vn が一定の場	
ベス 2.	。 H 式らせん加工時の 安定現象の発見	のらせん幅	合,(1)式は w と vi の2元関 に依存する。ところで,らせん 与える(すなわち P を与える)	数となり、 vi は w 幅 w は ve、 vn を
			· · · · · · · · · · · · · · · · · · · 	· _ · _ ·
_				
Ľ	11上は 個人の話的(オナットマ レニッノ ジン と、	浮セトボドッ 如っつ 赤頭曲ギチ	(住)テリックスート スー・スー・スー
3 ~	~ 5 本縦列したピン間に	ジグザグに涌過させ、	こで, 予備実験として Fig. 1	に示したようた単
_	τ			

<u></u>	0.5≤w≤1.5mm を目標に実験を行った。 2·1·2 実験結果 同一ピン径について,異なる荷重Wと素線曲 <u>げ角度とにおけるらみんで、チPよパラインタク</u>	に示す。らせん幅 w が C_v のほかに塑性加工条件 の W と γ とに大きく依存している。そこで、以 後はらせん幅 w のみについて考えることにする。 通常採用されているピン径 $D=2.30\phi$ での種々 の W にたけて、 k w の即(5 + N= 5 (a) にご	
·			
· · · · · ·			
- -			
-	の関係を Eio. 3 に示す。木宝監の場合 C 》mの	オーマー90°のとさけ W ポーセルスは ビッルスは、マリ、	
" " 1			-
/ - 	r		
, ,			
·			
i			
	•		
· .			
1 <u> </u>			
<u>د</u>			
ζ			

	Vol. 8 No. 2	鋼線のらせん加工時	うのらせん幅安定条件	224
	さいことが認められる。		て、 eo/lo をパラメータとし るらせん幅 w の変化を Fi は、それぞれピンを通過す ²	g.7 に示す。 ₅o と b るときの素線の蛇行幅
	■			
-				
	_			
£	÷			
1 				
<u>د</u>				
-				
-	۰ <u>د</u>			
<u> </u>		3	د در مربعه المربع	
·,.				
۱ <u>ــــــــــــــــــــــــــــــــــــ</u>	ł			
1-	<i>i</i>	·		

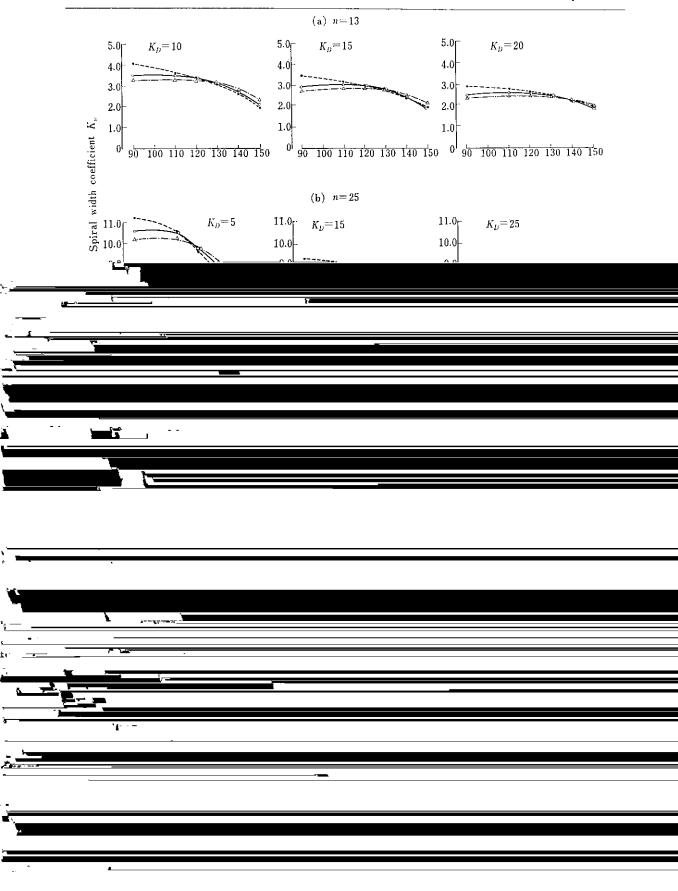


Vol. 8 No. 2

ĴŦ

		ar 14		
<u>1</u>				
۹				
-				
Li .				
1				
4 1				
<u></u>				
· <u>··</u>			<u> </u>	
	<u> </u>			
	- ·· ····			
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
	-		A. =	
	k -	L		
·	\$. {			
£	100			
e.				
•				
ž				
-				
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	·····	
	_			
<u> </u>				
£.*	e		. » · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	<u> </u>
	' }			
,►	<u> </u>			
i 74				
<u>+</u>				
7 1 Yz				
}				
E				
Y				
41.				
-				
***			······································	
	·····	······································		
ii	<u>8-3</u>	ā		۱,۲
<i>.</i>				
<i>I.</i> E1				
<i>.</i>				

226



Vol. 8	No. 2
--------	-------

	3·1·4 K _D -K _₩ 曲線図	=11 の場合のような同一の曲線では示されず, d ビナムずれが辺められる d=0 384 のほうが同
	·	
<u></u>		
<u> </u>		
•		
-	-	
	· ·	· ···
-		f
,	1 6. 1.	
Ţ		
<u> </u>		
		7
	<u>x</u>	
,		
	,	
-		
.=		
-		
- <u> </u>		
- -		
سر 		
سر 		
- - -		
- - -		
- - -		± =γ. ,
- - -		2 • V .
		₫ • V
		2 • V .
		₫ • V
		₫ • V
		₫ • V
		₫ • V
		₫ • V
		₫ • V

229	川崎製鉄技報	April 1976
		Слав I т. 2007 г. 2000 г. Самае —
4		
afe -		
۲ ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ - ۲۰۰۰ -		
◆4		
·		
,		
·		
·		
·		
,		
· 		
·		
		<u>F</u> 7

Vol.	8	No.	2
------	---	-----	---

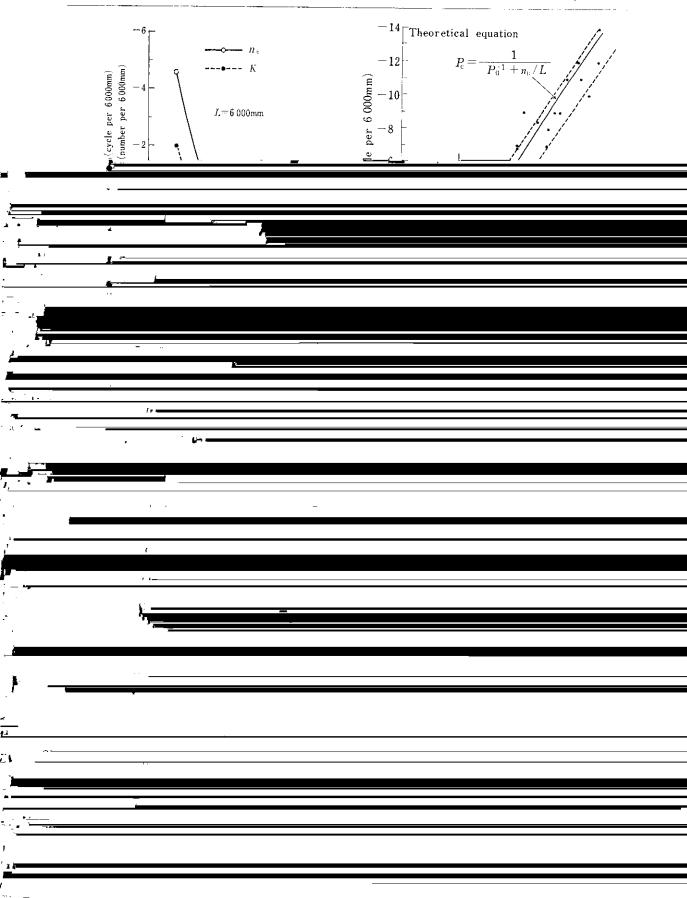
Į

. .

鋼線のらせん加工時のらせん幅安定条件

230	
-----	--

1				
ł	m 11 0 C		/) 古十) , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
			4	
r				
<u>i</u> 1				
- i				
~ `				
<u>)</u> ,				
£				
4 <u></u>				
ŧ				
<u> </u>				
		ě		
,				an har it was
•				
1 e 1'				
. 				
1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1				
7				
	2			
<u></u>				
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
, 				
<u> </u>				
-1				
		-	······································	
-			_	
· · ·				_
	1			
·				
<u> </u>				
'ı —				
1.1				
<u>{</u>				



	Vol. 8 No. 2	鋼線のらせん加工時のらせん幅安定条件	232
	1.0 Non-repulsive zone		-
• I_			
- <u> </u>	• · ·		
<u>۔</u> بر	<u> </u>	<u> </u>	
		-	
-			
^			
- <u>27</u>			
		· · · ·	()
- 2			
-	<u></u>		
-	A <u>. 69</u>		

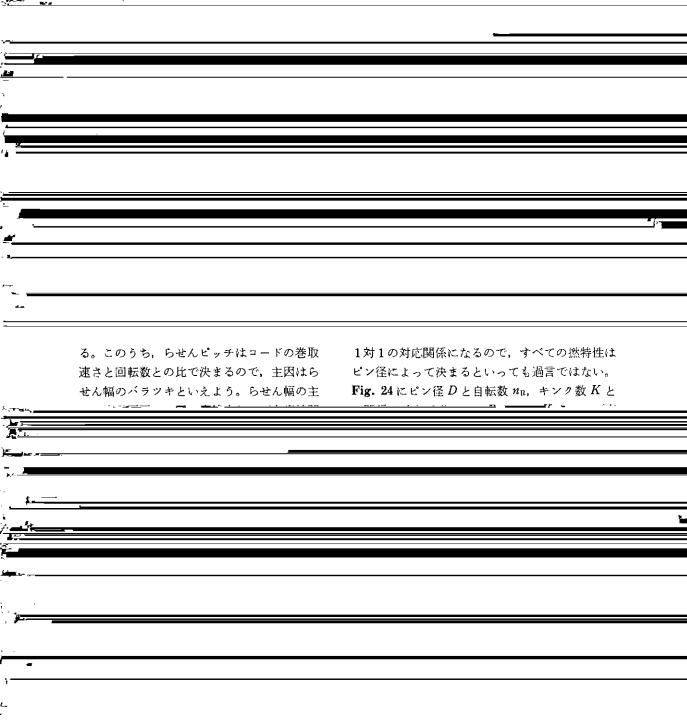
I

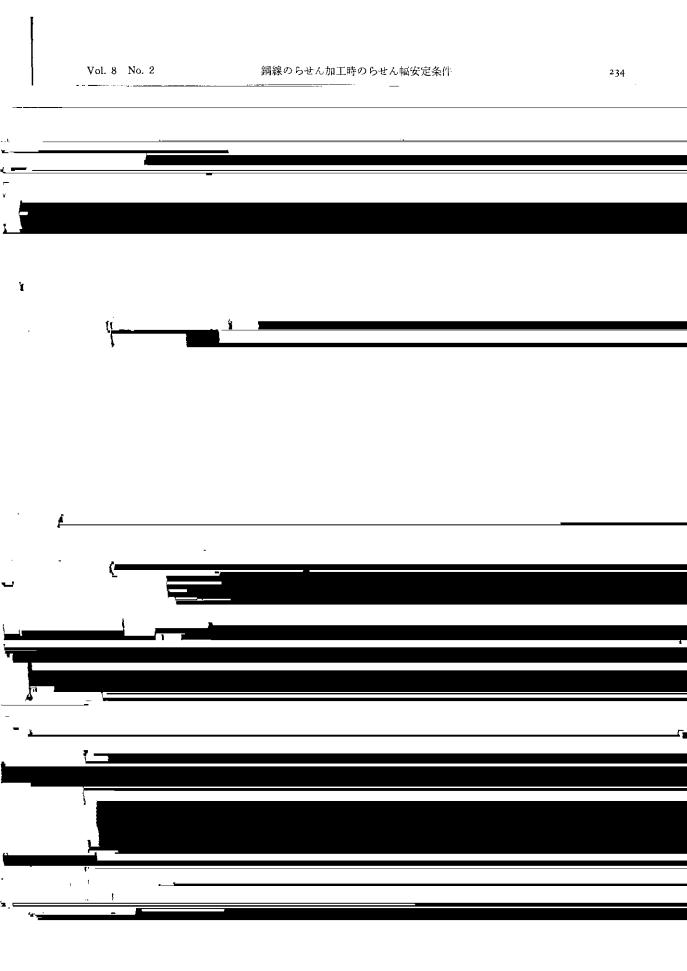
(3) 真直性

(2)にのべたように、S字ぐせはコード端 末の自転数(またはキンク数)がある値を超 えると発生することが明らかになったが、コ ード端末の振れ幅と円弧の高さとで表示され る曲がりは、いずれも個々の素線のらせん特 件の選択により、ポストフォームを全く必要 とせずほぼ完璧な真円度を得た。

4・2 撚特性の決定要因とその挙動

前述のように、すべての撚特性を決定する要因は素線のらせん幅であることがわかった。さらに





235	Щ	崎	製	鉄	技	報

<i>D</i> _	1

April 1976

·		
<u> </u>		
	_	
1		
t		
<i>в</i>		
7		
·		
18		
• •	n	
_		
-		
<u> </u>		
	を推定し,十分に満足できる成果を得た。	(d) 素線のらせんピッチPcとらせん幅 w と
		(a) 素様のらせんヒッナfeとらせん幅 W と
	(4) <u>タイヤコードの試作</u> 実験 <u>から</u> , 撚特性に <u>関</u>	の関係図由において「不反発性領域を確認
-		
, 1		
·		
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
,		
	してつぎのことがわかった。	$\tau + r = n_0 - 0$ + to be the $P = P_0$ or be the
	してつぎのことがわかった。	できた。 $n_{ m R}=0$, すなわち $P_{ m c}=P_0$ のとき
	してつぎのことがわかった。 () ローーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	できた。 $n_{ m R}=0$, すなわち $P_{ m c}=P_0$ のとき
		できた。 $n_{ m R}=0$, すなわち $P_{ m c}=P_0$ のとき
		できた。 $n_{ m R}=0$, すなわち $P_{ m c}=P_{ m 0}$ のとき
		できた。 $n_{ m R}=0$, すなわち $P_{ m c}=P_{ m 0}$ のとき
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		できた。 $n_{ m R}=0$, すなわち $P_{ m c}=P_{ m 0}$ のとき
		できた。 $n_{ m R}=0$, すなわち $P_{ m c}=P_0$ のとき
		できた。 nn=0, すなわち Pc=Po のとき
· · · · · ·		できた。 $n_{ m R}=0$, すなわち $P_{ m c}=P_{ m 0}$ のとき
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		できた。 $n_{ m R}=0$, すなわち $P_{ m c}=P_{ m 0}$ のとき
		できた。 $n_{ m R}=0$, すなわち $P_{ m c}=P_0$ のとき
		できた。 nR=0, すなわち Pc=Po のとき
		できた。 n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
		できた。n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
		できた。n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
		できた。 nR=0, すなわち Pc=Po のとき
		できた。 n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
- - - /T-		できた。 n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
- - - /T-		できた。n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
		できた。 n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
- - - /T-		できた。n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
		できた。n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
- - - /T-		できた。 n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
		できた。 n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
), 		できた。 n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
), 		できた。n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき
		できた。 n _R =0, すなわち P _c =P ₀ のとき